

サラヤ；衛生・環境・健康への取り組み



企業レポート

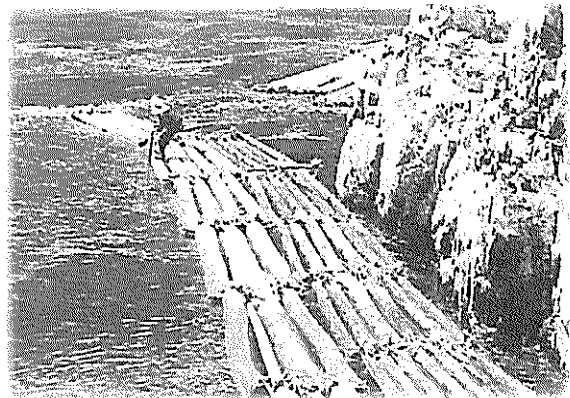
更 家 悠 介*

SARAYA'S Challenge to the Business(Sanitation, Environment, Health)

Key Words : Sanitation, Environment, Health

1. 会 社 概 要

社 名：サラヤ株式会社
英 文 名 称：SARAYA Co., Ltd.
本社所在地：〒546-0013
大阪市東住吉区湯里2-2-8
設 立：1952年
資 本 金：4500万円
売 上 高：180億円
従 業 員 数：1075人
事 業 内 容：衛生・環境・健康に関わる商品とサービス



熊野川の筏流し

2. 当社について

当社は1952年に父の更家章太によって創業いたしました。私共の本籍は三重県熊野市で本年世界遺産に指定された熊野古道のあるところです。熊野は太平洋に張り出した紀伊半島の先にあり、気候が温暖で雨が多いことから、木々がよく成長します。私の家は代々山林業に従事し、伐採した木で筏を組んでは熊野川の流れを利用し、新宮へ木材を運び生計を立てていました。

そんな背景の自然とは縁の深い家風の中で育ったので、環境に興味をもちました。そして、大阪大学の発酵工学科(現在応用生物)に進み市川教授の元で、生物による廃水処理(活性汚泥や散水濾床)を教えて

いただき、その後カリフォルニア大学パークレー校大学院で公衆衛生や衛生工学を学びました。環境・衛生・健康が当社の3本柱の事業であることは、こんな背景にもあります。

1952年の創業時は写真1のような石鹼容器と手を洗えば殺菌・消毒ができる石鹼液(ヤシ油由来)を製造し大手の事業所に直売していました。戦後間もない時代で赤痢や疫痢が流行していた頃でした。

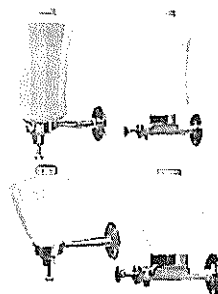


写真1 押出・押上式石鹼液点滴容器

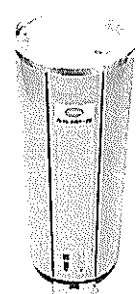


写真2 コロロ自動うがい器

その後大気汚染の激しい頃にはコロロうがい薬やコロロ自動うがい器を開発販売しました(写真2-1966年)。また、石油系洗剤による河川の汚染が進



* Yusuke SARAYA
1951年5月生
1974年大阪大学工学部発酵工学科卒業
1975年カリフォルニア大学パークレー校工学部 衛生工学科 修士課程修了
現在、サラヤ株式会社、代表取締役社長
TEL 06-6797-3111
FAX 06-6700-6656
E-Mail sec@saraya.com

んでいる頃、ヤシノミ洗剤を開発発売しました(写真2—1971年)。

食品衛生のCCSシステム(1988年)、院内感染予防の手洗いヒビスコール(1989年)糖尿病や肥満のためのラカントS(1984年)など時代の変化にあわせ商品を開発・販売してきました。

3. 主な事業分野

52年目の今日の当社の事業ですが、市場別に分類した主な事業分野を以下に要約します。ただ市場は生き物ですので、市場の変化にあわせ当社の事業もどんどん変化しています。

3-1. 一般消費者の市場

一般消費者市場とはスーパーや薬局、ホームセンターなどにおいてご家庭向けに販売させていただいている分野です。石鹼洗剤日用品、衛生用品、健康食品を中心に営業を行っています。

- ・石鹼洗剤：ヤシノミ洗剤(写真3)、アラウ(写真4)、ヤシノミDCシャンプー・リンス、大豆からつくったバイオ洗剤ソホロン、手洗い石鹼液のシャボネットF、ウォシュボンなど
- ・衛生用品：手洗い石鹼液、消毒剤、コロロウがい薬など
- ・健康食品：糖尿病・肥満症の方のための特別用途食品ラカントS、各種サプリメントなど

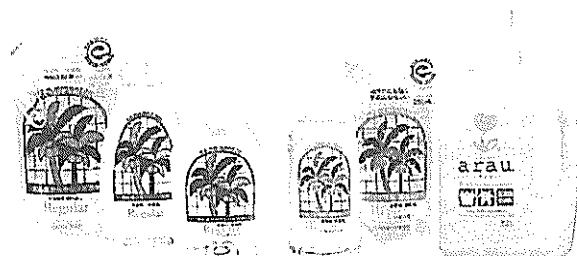


写真3 ヤシノミ洗剤

写真4 アラウ

3-2. 食品衛生

1997年に大阪府・堺市で発生した病原性大腸菌O157による大型食中毒事件は全国を震撼させました。その後もBSE、鳥インフルエンザの発生などで、食の安心と安全に対する関心は日々高まっています。当社は1952年の創業以来、食品衛生の分野に取組み全国の食品関連の事業者の方々に食品衛生のための各種洗浄剤(写真5)をご利用いただいています。主なユーザーはスーパーマーケット、ホテル、レスト

ラン、外食・給食産業、食品工場です。また、食品衛生向上のための洗浄剤や消毒剤などのハードだけではなく、食品衛生インストラクターの制度を設け、検査や教育を各現場において行なっています。



写真5 CCS(薬剤のカラーコーディネートシステム)

3-3. 事業所・官公庁・学校

事業所・官公庁では働く人の健康を守るため、健康保険組合ができ、いろいろな事業を展開しています。当社はその運営を通じて、組合員の方々に手洗いやうがいなど疾病予防の商品を販売しています。また、働く現場においては油污れや重金属などの各種産業手洗いや手洗いステーションを、学校においては学校給食や学校保健に関わる商品とサービスを販売しています。

3-4. 医療・福祉

近年MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)やHB, HC(肝炎ウイルス)、緑膿菌、セラチア菌、ごく最近ではSARSなど院内感染の話題に事欠くことがありません。医療や福祉の現場(写真7)においてはエビデンスに基づいた対応(EBM)が導入され、科学的な原因究明とその対応がなされるようになりました。

その中でも最も基本的な対応は手洗いであり、



写真6 ヒビスコールA



写真7 医療施設で使用

CDC(米国疾病予防センター)による各種の勧告が出されています。当社はその勧告を指針にして各種手洗い、機械器具の消毒、環境の消毒などの商品を開発販売しています。

3-5. 海外市場

近年になり市場がグローバル化する中で競争も激化しています。1995年にアメリカにおいてベストサニタイザーズ社を設立し、食品衛生、医療衛生の仕事をはじめました。そして2003年にはサラヤコリア、サラヤ香港、そして本年サラヤタイに販売会社を設立し、手洗いや消毒の関連商品を中心にマーケット開発を行なっています。



写真8 機器工場「サロ雅潔具製品廠」中国広州 2003年設立

4. 今後の研究

4-1. ノータッチの推進

衛生の基本は手洗いです。ことに食品衛生や医療従事者は手洗いの責任が大きくなります。しかし、せっかく手を洗っても蛇口やカランに触ると、手が再汚染する可能性があります。石鹼液や消毒剤のディスペンサーを自動にできないかと努力してきましたが、1982年に写真下のような手指消毒器FS-3000を開発し、発売しました。

その後現場の要請にあわせて機器をつくり変え、大型化、小型化、手洗いステーション、完全ディスポのUDシリーズなど(写真9)をつくり出してきました。また、それに附随して自動水栓やシンクも開発しています。

手洗いのニーズは今や世界競争となり、欧米各社やアジア製などいろいろな意匠と性能、コストを競っています。当社としては「手洗い企業」世界ナンバーワンを目指し、いろいろな場面やニーズに対応して製品開発を進めて行くつもりです。

もうひとつの自動化は、薬剤や洗浄剤の希釈です。ポンプや流量計を組み合わせ、ワンタッチで適性

倍率に液を混合し、性能が発期されやすい希釈装置の開発です。

- ① 各種センサー
- ② ポンプ
- ③ 電装部品やチップの開発
- ④ 全体的な組み合わせとデザイン

などが今後の主要な開発と組み合わせ要素となっています。

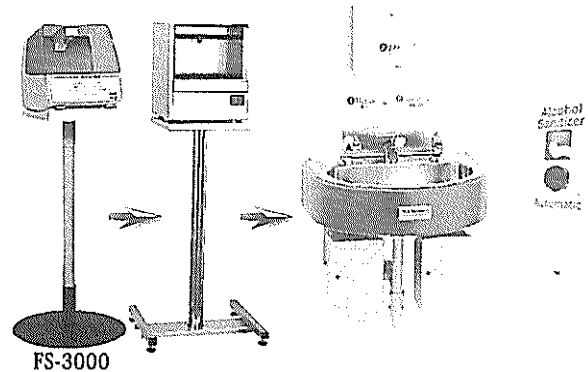


写真9 各種自動消毒器、手洗いステーション

4-2. 健康分野での商品開発

日本の健康保険制度では、病気になった人には治療費は出しますが、予防のためには費用は出さないことになっています。しかし、健康管理のあるべき姿は「治療」よりも「予防」のはずです。健康で快適なクオリティ オブ ライフを送ろうとすれば、予防を前提に健康を維持することではありますが、そのための「栄養」と「運動」は大切な要素です。

1996年に当時の厚生省は今まで「成人病」と呼んでいた病気を「生活習慣病」と変えました。これは、中年期以降に罹患する糖尿病や高血圧、高脂血症など多くの病気が生活習慣に由来することから、生活習慣を考える意味でこの呼び方にかえました。

中でも糖尿病は予備軍も入れて、今や1200万人もの患者がいるといわれています。糖尿病の方々は甘いものが大好きですが、砂糖を食べると血糖値が急上昇し、血糖コントロールができなくなります。当社では、1995年に厚生労働省許可特殊栄養食品ラカントS(写真10)を発売し、好評を得ています。今後は、

- ① 糖尿病など生活習慣病の予防
- ② 健康維持に必要な栄養補給のサプリメント
- ③ 生活の折々に必要なこころのサプリメント
- ④ 健康をチェックする機器



写真10 糖尿病の方のための特別用途食品ラカントS

などの項目において健康分野を推進する予定です。

4-3. 各種洗淨剤・消毒剤の開発

2001年には大豆を発酵させてつくったバイオサーファクタント(天然界面活性剤)のひとつであるソホロリピッドを安定的に大量生産する方法を開発し、あわせて洗剤としての商品化に成功しました。このソホロリピッドは低起泡性であることから自動食器洗い機用洗剤ソホロン(写真11)としてご家庭でご利用いただいております。更に種々の用途開発を検討中です。



写真 11 大豆から生まれたバイオの製剤

4-4. 医療用機器の洗浄剤

院内感染予防のため、体液に触れた医療器具は洗淨・消毒されます。まず、適正な洗淨によって99.9%の菌やウイルスは除去されます。このための各種洗淨剤を開発中です。

4-5. 食品衛生用洗淨劑

食品衛生においても洗浄はプロの仕様を要求されます。こげついた油污れを特殊洗剤、オレンジの皮を再利用したオレンジクリーナー、さっとひとふきカウンタークロス用洗剤、トイレの尿石除去洗剤など目的にあわせて開発を行なっています。

4-6. 高度殺菌消毒剤・アセサイド

高度殺菌消毒(High Level Disinfection)とはウ

イルス、芽胞を滅殺する消毒方法です。体内に挿管する器具の滅菌・消毒に用いられます。当社では2001年に過酢酸製剤アセサイド(写真12)の医薬品製造許可を受け、現在内視鏡などの消毒にご利用いただいています。この薬剤は本年7月FDA(アメリカ)、TGA(オーストラリア、ヨーロッパ)での製造販売の許可の申請を行ないました。

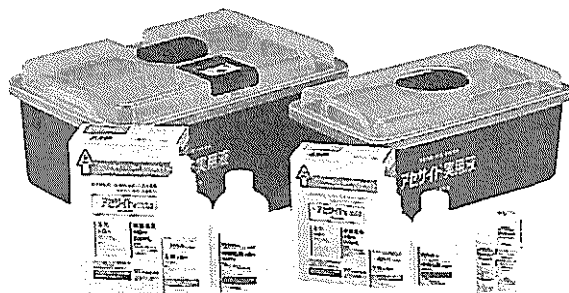


写真 12 高度殺菌消毒剤、過酢酸製剤アセサイド6%消毒

5. 環境への取り組み

最後に当社の環境への取り組みを紹介します。従来より

- ①天然植物成分の多用 ②包装資材の削減
③リサイクルの推進 などの活動に取り組んできました。本年になり、NPO法人エコデザインネットワークとともに食品分野の生ゴミのリサイクルの実施実験に取り組んでいます。

具体的には大阪府の提唱するエコエリア構想にのっとり、堺市の湾岸73区において、図1のようにバイオマス活用炭化事業を行ない、このプロセスでできた生成物を農業用途に用いることを目的に、実験を繰り返しながら、2006年4月からは商用施設として活用する予定であります。



図1 エコデザインのスキーム